

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は減少しているが、客1人当たりの購買点数が増えている。一定の買上点数が出ているということで、ある程度の売上は維持できているのではないかと考える。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・大型の台風に見舞われ、売上が厳しい日が2～3日はあったが、それ以外は全体的に天候や気温に恵まれたこともあり、夏物の処分と、意外にも秋物の商品の売行きが良く、売上高は前年を上回った。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の受注が好調であった。
		その他飲食 [ファーストフード]（経営者）	来客数の動き	・例年の夏以上に客数が増えている。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年は6～8月に風水害があったが、県庁所在地では余り影響は受けなかった。地元の温泉街は根強い人気があり、商店街にもぎわった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・利用客の反応をみるに3か月前と比較するとやや良くなっている。それは、地元の祭りへの来客数やお盆の帰省時における利用者の増加が理由であると予想する。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社の中で最も利益率の高いサービスの販売量が増加している。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売数が3か月前に比べて15%増加したためである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今年のお盆辺りはかなり客数が増加したためである。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・猛暑の影響のためか、来客数が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月に近くの図書館がオープンしたことで集客力が上昇した。また、8月に行われた祭りについても訪日外国人も多かったことが商店街の活性化に寄与している。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・例年のない酷暑であったため、高齢者を中心に外出を控える人も多く、ターゲットが高齢者である業種は総じて厳しかった。一方で、訪日外国人の客は前年よりも増えており、人通りとしてはトータルではプラスであった。夏物のセールは7月が思いのほか売上が伸びなかったが、8月は息長く売れた。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響や猛暑の影響なのか週末等の集客が鈍く感じる。客の声や様子も自粛とまではいかないが動向が良くない。
		一般小売店[文具店]（経営者）	お客様の様子	・来店客をみるに、競合は100円ショップなどであることが予想され、消費者行動には安い商品を求めるなどといった価格訴求の観点が強く反映されている。
		一般小売店[乾物]（店員）	販売量の動き	・地元のお祭りに関する騒動と酷暑により、売上、来客数共にかなり減少した。
		一般小売店[酒]（販売担当）	販売量の動き	・暑すぎるせいか、財布のひもが固いのか、料飲店での販売数が伸びなかった。それに清涼飲料水の仕入れが困難だったため売上に響いた。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の反動からか、売上が比較的好調であった。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・台風や猛暑の影響による秋物立ち上げ不振などにより、売上が伸び悩んだ。
		百貨店（営業統括担当）	来客数の動き	・猛暑や台風の影響により、営業店の集客は苦戦した。動員施策として実施した夏休みイベントや催事にはぎわいをみせたが、店全体の動員や売上の押し上げには至らなかった一方、化粧品や高価格帯商品の売上は堅調に推移した。
	百貨店（販売促進）	お客様の様子	・豪雨の影響もあり、全体的に購買意欲は高くない。猛暑が続く、秋物への移行が進まず単価が上がらない。	
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・春先からの価格の上昇及び豪雨の影響から商品単価はかなり上昇しているが、来店客数については伸びがない。	
	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。	

	コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価が前年を上回っている。	
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・比較的天気や気温に恵まれているが、客数の前年割れ傾向は変わらない。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べ、猛暑のためか、客の動きは余り良くない。売上を含めた景気は余り変わらないように感じる。	
	衣料品専門店（営業責任者）	来客数の動き	・売上は前年並みで推移しているが、秋物商材の動き出しが非常に悪い。暑さの影響のため、外出を控えている客も多く、来客数が減少している。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材の購入が一段落して全体的な販売量が減った。	
	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・残暑が続きエアコンは前年比を上回って推移しているが、その他家電の伸びが悪い。販売単価については前年より良い。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の新車受注状況は前年比1割程度アップしているが、前年が悪かったため前年並みといえる。	
	その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	お客様の様子	・お盆期間中の人出は大雨の影響もあり少なかったと感じたが、売上への影響については、それ程はみられなかった。	
	通信会社（支店長）	販売量の動き	・特段の目立った変化はみられない。	
	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・注目レース時には平常時に比べ一時的に増加傾向がみられるが、ふだんは落ち着いた状態になりほとんど同水準にある。	
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・特に状況は変わっていない。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・今後商店街、百貨店、ショッピングモールなどの既存店舗で売上を増やすのはほとんど期待できない。既存店でもネット販売に主力を置くところがかかり増えている。既存店の構成でもネットの影響を受けにくい飲食が主体に定着してきた。	
	一般小売店 [生花]（経営者）	それ以外	・豪雨や台風や猛暑で人通りが少なかった。お盆前の連休も痛手となった。悪天候で市場の入荷量が減り、仕入価格が高くなったことも不振の要因として挙がる。	
	一般小売店 [書籍]（営業担当）	来客数の動き	・8月はお盆に商品が入ってこないため、売上も来客数も落ちる月だが、今年は暑さも加わり更に悪化している。	
	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型車や豪雨で冠水した車の買換えがあり契約数は伸びたが、一時的なことであった。	
	x	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来店客数が想定以上に減少の一途をたどっている。
企業 動向 関連 (四国)	*	*	*	
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は増加しているが、出荷が遅れ気味で在庫が増加している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光は下降線をたどっているが、バイオマスについては工事に着手したものと受注が堅調に推移している。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・天候が自社にとって良かったこともあり、景気が良いと感じている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・猛暑により飲料系貨物の輸送量が大幅に増加している。
		農林水産業（職員）	取引先の様子	・農産物を取り巻く環境は、天候、気象災害、輸入、消費等に左右されるが、近年は天候により左右されることが多い。このため、栽培地域や生産者の栽培技術、気象災害を含めた天候により生産者・栽培品目による所得格差が拡大傾向にある。幅広く一定の所得が得られにくくなっているのが現状であり、これを受けて、卸売価格の変動幅も大きくなっている。生産者、卸売業者、量販店等の実需者が均等に利益を上げるのではなく、特定の生産者だけが利益を上げる構図が強まっており、利益の分配が偏る傾向にある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地域によって格差があるが、猛暑で夏物商材がよく売れている地域、海外からの観光客であふれている地域、そして構造的に不景気な地域と分かれている。全国的には昨年並みである。
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・上期の受注が前年に比べて悪いことが売上の伸び悩み要因である。	

	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 8月はお盆休みもあり、営業日数が少ないため、売上もかなり落ち込んでいる。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ 得意先からの受注量及びそれに応じての出荷量について、大きな変動がない。また、販売単価に関しても、契約に基づいて一定しているため安定的に推移している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 受注は数か月前と比べて低下気味だ。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 平成30年7月豪雨の災害対応業務を受注し、手持ち仕事量は増えているが、全体量や工期が見通せない。数か月後から、業績に対し効果が出てくると考える。
	公認会計士	取引先の様子	・ 今月の各企業の決算、試算表等を分析した結果、前年と変わらない企業がほとんどである。そういうことから、景気は今のところ落ち着いていると判断している。
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・ 猛暑の影響で飲料、氷用等資材の動きは良かったが、外食・土産用等落ち込みの多かった製品も多く、どちらかというマイナスの方が多く印象である。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・ 今年の台風は大型である上に大半が西日本寄りの進路をとっていることから、四国と本州を結ぶトラック便の欠便が例年よりも多く発生し、取扱物量が著しく減少し経営を圧迫している。
	金融業（副支店長）	競争相手の様子	・ 平成30年7月豪雨の影響が表面化してきた取引先が数社ある。直接の被災のみならず、仕入れ支払資金等で資金繰りが厳しいケースも幾つか存在する。
	x	-	-
雇用 関連			
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・ 前年と比べて、派遣の依頼が増加している。
	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・ 求人企業の採用担当者のお話の中で、内定を出してもキャンセルの連絡が例年と比較しても増えているという声をよく聞く。合同面接会へ参加するとエントリーの数は多いが採用実績につながる人材の確保が不透明という状況である。人材確保についての企業格差が良くも悪くも表れている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ 受注の動きがあるとなれば建設、観光業界のみであり、他の一般企業は微減傾向にある。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・ 求人倍率は好調に推移しているものの、賃金などの採用条件は変化していない。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・ 7月の有効求人倍率は1.50倍で、3か月前と比べて0.10ポイント増加しているが、6か月前と比べると0.12ポイント減少しており、良くもなく悪くもなく、現状維持と判断した。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・ 最近は製造業を中心に企業訪問を行っているが、新卒採用、中途採用共に、企業側の希望する人数は採用できていないようである。理由としては、最近の有効求人倍率から鑑みても、中小企業に着目すると求職者が少ないからだと考えられる。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・ 派遣の募集が減っていることから、これまでと比較すれば求人の動きが落ち着いてきたと判断した。
	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・ 人手が足りないまま、業務を続けている企業が多く見受けられる。残業等に対応しているが、それにも限界があり、また、残業代がかさむことにより企業としては人件費が以前よりも増加するようになっている。
	x	-	-